

國學院大學学術情報リポジトリ

出張報告 生物多様性条約第13回締約国会議

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001670

國學院大學経済学研究 第48輯

〈出張報告〉

生物多様性条約第13回締約国会議

高 橋 雄 一

2016年12月4日から17日まで、メキシコのカンクンで生物多様性条約第13回締約国会議、カルタヘナ議定書第8回締約国会合及び名古屋議定書第2回締約国会合が開催され、その会期中の12月12日から17日まで、オブザーバーとして参加した。

生物多様性条約は、生物多様性の保全、生物多様性の構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的としており、1992年に採択された。

生物多様性条約会議では、作業部会（Working Group：WG）が2つあり、午前（10時から13時）と午後（15時から18時）の2回行われる。またWGで議論がまとまらない場合は、コンタクトグループが開かれ、関係国が参加し、議論を行い、まとまったものが再びWGで議論される。各WGで議論されてまとまった議題は、最終的にプレナリーで採択される。

今会議には、途中から参加したこともあり、プレナリーで採択された議題もあった。他方、残っている議題は紛糾しているものであった。参加期間中は、コンタクトグループで話がまとまらず、予定の時間帯にWGが開かれない時間帯もあつたり、予定時刻に終了しなかったりというのが続いていた。

特に先住民族に関する議題については、紛糾していたように感じる。WGの場でも、先住民族やNGOなどが抗議の意味を込めて、会議場から離席したり、フロアでメッセージを掲げていたりした。今会議は、開催地の関係か議題があつたこともあり、先住民族の参加者が多くいたように感じた。

本会議やWGの他にはサイドイベントが午前のWG終了後の13:15からと、午後のWG終了後の18:15に開かれていた。サイドイベントは、同じ時

間帯に10前後のさまざまな視点からのサイドイベントが開かれており、サイドイベントの主催は生物多様性条約事務局、政府、国際機関、非政府組織、企業などさまざまな団体が担い、研究者からの報告も多々あり、学会報告のようなものもある。

サイドイベントでは、地域社会や持続可能な利用に関するテーマとしているものに参加した。近年の傾向であるのかもしれないが、生物多様性や生態系の保全に関わる地域社会の役割に関する研究というのが多く行われており、さまざまな国際組織などが研究者と連携しておこなっている報告などもみられた。

国際会議の場合は、会議の議題について議論をするだけでなく、さまざまな取組みの報告の場でもあり、最新の報告等がサイドイベントやポスターなどの展示等で知ることができる。インターネットでWGは配信されているが、WG以外の配信されていない場所などでも物事が決まったり、報告があったりするので、会議に参加することで多くの情報を得るいい機会であった。

2016年は10月にワシントン条約第17回締約国会議、12月に生物多様性条約第13回締約国会議に参加できたことで、生物に関わる会議であるものの参加している人の関心の違いというものを感じることができた。ワシントン条約の参加者は、動植物そのものに関心がある人が多く、生物多様性条約の参加者は生態系に関心があったり、生物多様性に関わることをビジネスにしていたりするような参加者というのも多くいたように感じた。



生物多様性条約第13回締約国会議会場内の様子（筆者撮影）

平成28年度 修士学位論文 題目一覧

氏名	学位 (修士)	論文題目	主査	副査
三丸 俊大	経済学	日本における公害教育の歴史と問題点 学習指導要領と教科書を中心として	菅井	古沢
酒井 泰行	経済学	所得税と相続税の二重課税問題 －負担調整措置の現状と課題－	佐藤	小宮山
出口 泰子	経済学	欠損金の繰越控除に関する一考察 －控除限度額引下げ及び期間延長を中心に－	藤村	佐藤
阿部 愛介	経済学	収入形態の多様化と所得分類に関する一考察 －事業所得の範囲を中心として－	小宮山	佐藤

